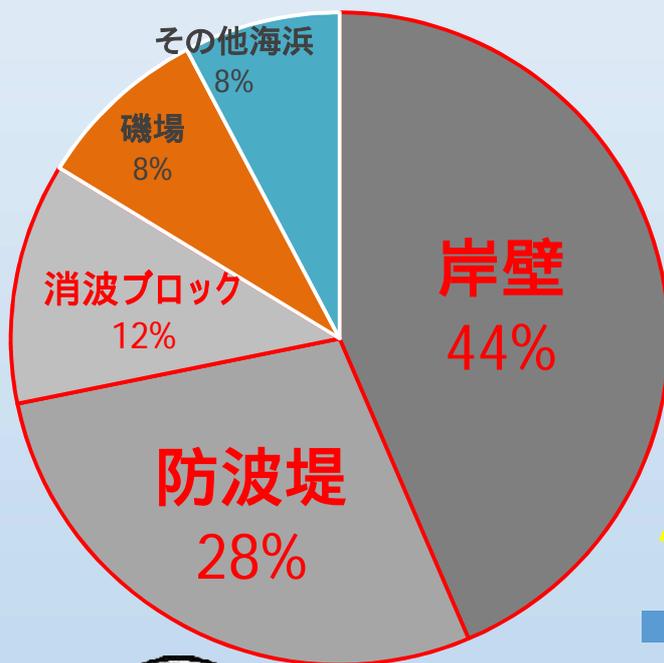


事故は身近で起きる！

釣り中の海中転落事故の8割が岸壁・防波堤・消波ブロック

平坦な場所でも油断大敵！

事故発生場所(H25～H29)



- ・釣り場環境のリスクを認識
- ・複数行動と連絡手段の確保
- ・ライフジャケットの常時着用
- ・立入禁止場所には入らない
- ・気象の把握



スマホサイト

海の安全情報

緊急情報メール登録



海の「もしも」は

118番

ライフジャケット(フローティングベスト)って、 どんなのを着たらいいの？

船舶を利用しない釣りをする場合は、法律上は何の規制も基準もありません。

でも、それでは、何を着用していいのか判りませんよね。

目安となるのは、浮力です。

一般的に体重の10%の浮力があれば、静水で頭が水面から出るとされています。

たとえば、体重が70kgあれば、浮力は、7.0kg以上が必要になります。



浮力表示は、商品タグや内側に表示されており、大人用の場合は、7.5kg以上の物が多く販売されています。判らない場合は、お店の方に問い合わせてください。



プレジャーボートや遊漁船で釣りをされる方は、国土交通省認定品（桜マーク付）が必須です。

参考

国土交通省認定品(小型船舶用)には、大人用7.5kg、小児用5kg、幼児用4kg等の規定があります。

船舶用以外の「レジャー用ライフジャケット」には基準が無かったため、日本小型船舶検査機構を中心とした関連団体等で意見交換が行われ、平成26年度に民間の任意基準が定められました。

この基準については、製造者自らが適合を宣言する自己認証と第三者機関が認証する第三者認証があり、第三者認証として適合したライフジャケットは、CSマークが付けられています。



ライフジャケットは、大きく分けて「固型式」と「膨張式」の二種類に分けられます。

固型式

発泡体の浮体が入ったもの



利点：

- ・落水時にそのまま浮力を得られる
- ・転んだときのクッションになる
- ・スマホが入る収納ポケットが多い
- ・安価なものがある

欠点：

- ・夏に暑い
- ・慣れにもよるが邪魔
- ・浮体の潰れによる浮力低下がある（性能劣化の確認ができない）

膨張式

圧縮空気により浮体を膨張させるもの



利点：

- ・コンパクト
- ・ウエストタイプ等邪魔にならないものもある
- ・夏でも暑くない

欠点：

- ・手動で膨張するか、自動で膨張するまで浮力が得られない
- ・定期的にメンテナンスやボンベ交換等の維持コストがかかる
- ・比較的高価

以上のようにどちらにも利点欠点があり、それを理解した上で好みや自分の釣り方に合ったものを選ぶと良いでしょう。

また、正しく着用しなければ落水時に脱落してしまうこともあるので、ベルト、股ベルト、ファスナー等をしっかり締めることが大切です。

自分だけは大丈夫？

一步先は**海**だということを忘れずに

こんな事故が発生しています！

夜間、携帯電話を見ながら防波堤を歩いていたところ足を踏み外し海に転落(昼間にも同内容で発生)

天候や海上模様が穏やかだったため、港外側で釣りをしようと防波堤の外側に設置された消波ブロックを移動中、足を滑らせて海に転落

釣り中に、岸壁上の突起物につまづいて海に転落

海に背を向け、魚はずしや後片付けに集中し、足を踏み外して海に転落

椅子に座って釣り中に椅子から立ち上がった際、バランスを崩して海に転落(めまいでふらついて転落も··)

冬場に車の中で暖をとりながらアタリが来るのを待ち、アタリがきたので車を飛び出し、釣座へ駆け寄った際、足元の凍結で滑って海に転落(砂や泥で滑っての転落も··)

日常生活の中で起こる何気ない反射的動作などが、海のそばでは転落事故に繋がります。

それでも、自分は落ちない自信がありますか？

命を守るのはあなた自身です！

爆釣でもボウズでも無理をせず

元気に帰宅！



第一管区海上保安本部 〒047-8560 北海道小樽市港町5番2号
0134-27-0118(代表)